

## 地域交流見学会(エキスカーション)

平成22年10月23日(土) E、Hコースは1泊2日(23・24日)

### Aコース(佐賀)

#### 幕末～明治期の近代日本をリードした佐賀鍋島藩の歴史探訪

参加者：44名

薄曇りに時折日が差し込む、さわやかな秋日和に佐賀の歴史探訪が行なわれました。

最初に訪れたのは佐賀城本丸御殿の一部を忠実に復元した佐賀城本丸歴史館です。発掘調査を手がけた佐賀県職員の方から建設にまつわる興味ある話などを聞くことができ、館内ではよく勉強された地元ボランティアの方から、佐賀藩が全国に先駆けた科学技術や医学などの歴史を解り易く紹介していただきました。

次に訪れた、船をイメージした佐野常民記念館は、幕末に海軍技術の修練と造船を行った三重津海軍所跡の地にあって、世界遺産の候補地にもなっています。医者を目指し藩の科学技術、海軍のリーダーとなり、晩年には日本赤十字の父といわれた佐野常民の生涯が紹介され、そのひたむきな人生に感動しました。

そして、国内唯一、24mの橋桁が上下する筑後川の昇降橋見学のと、全国に誇る佐賀牛に舌鼓を打つ昼食は、皆様大変ご満足の様子でした。

最後に、内閣総理大臣を二度務め早稲田大学創始者として有名な大隈重信旧宅・大隈記念館を見学したあと、佐賀県庁11階展望室から佐賀平野を眺望し、佐賀の古今に思いを馳せていただき、無事笑顔で歴史探訪の旅を終ることができました。全国から参加された皆様ご苦労様でした。ありがとうございました。

(佐賀南支部 成松眞行)

### Bコース(佐賀)

#### 佐賀の雄大な自然と肥前佐賀文化を感じる

参加者：12名

佐賀平野の北でバルーンを楽しみ、佐賀平野を南北に走り、南で有明海を眺めるという計画です。少人数の旅でした。

まず、北に走り、嘉瀬川の河川敷でバルーンに乗ろうとしましたが、風が強くなり、係留飛行ができなくなり、離れ入ってパーナーの音に驚いて飛行の気分を味わっただけで、残念ということになりました。次の石井種公園の「水ものがたり館」では佐賀平野をうるおした嘉瀬川の模様を模型などで勉強し、石井種と嘉瀬川を見学しました。館長の荒巻先生のご説明と、目の前に広がる山と平野を眺め、江戸時代に治山治水に苦闘した先輩の偉業をしのびました。また石井種から流れ出て佐賀の街と平野をうるおした水路・多布畑川と周囲の景観を眺め、先人がつくり上げたクリークの街なかを走りました。

昼食は佐賀県庁の屋上です。珍しい有明海の料理を味わっていただき、40年程前まで駅前には置簀ぎの屋根が残り、建築界の話題になった図書館や体育館なども見えた平らな佐賀平野の中の街並みの眺めを楽しんでいただきました。

食卓に並んだ食材が樺む有明海まで南へ走り、江戸時代から現代まで続けられた干拓工事の跡の南端にある「干潟よか公園」を訪ねました。有明海の干潟や、色付き始めたばかりの珍しい海辺の紅葉の「シチメンソウ」が見渡せます。休憩所は珍しい形の「じょうごづくり」の屋根の民家風です。茅葺きの方形の屋根の中央が漏斗(じょうご)状にへこんでいる、いささか説明しにくい形で、なぜそうなったかという学説もいろいろあり、まだ定説がないようです。

旅の終わりは、有明海です。丁度、干潮の時期で、普通でも海水の干満の差が2mを越す干潟の波打ち際に降りることができました。海の水が嫌いだという珍しい魚の「むつごろう」を釣竿で操る糸の先の針で引っ掛けてとる技を、会員の白浜氏に実演していただき、参加者で体験をしました(もちろん一匹もとれませんが)、佐賀駅まで戻る途中で、やっと「くどづくり」屋根の民家を望みす



Aコース：佐賀の七賢人大隈重信侯爵銅像の前にて



Bコース：バルーン係留飛行体験パーナーオン



Cコース：車内の出発前の様子

ることもできました。

佐賀平野の中央部を南北に走りましたが、なにしろ全国的にも珍しいものが多く、文章や写真だけでは説明が及びません。「百聞は一見に如かず」です。皆様もぜひ一度、佐賀平野の平らさと珍しさを味わう旅にお越し下さい。

(佐賀北支部 深江利道)

### Cコース(神埼・鳥栖)

#### 名勝九年庵と吉野ヶ里遺跡とくすり博物館の探訪

参加者：42名

午前8時30分、バスセンターを予定通り出発。佐賀平野の代表的なクリーク景観と環濠集落、くど造りの民家を復元したのが神埼市の「横武クリーク公園」です。程なく公園に着き、バスから降りるとクリークを次ぎ抜ける風が心地よい。クリーク沿いの遊歩道をゆっくりと歩き、くど造りの「葦垣の館」に着きました。ひと通り公園の概要の説明を行い、民家の中では皆さんを夏の実と米西茶(吉野ヶ里町)でおもてなし。夏の実は千代田町の夏の実会にお願ひし、地元の馬場崎さんに湯がいてもらったものです。夏の実は見るのも食べるのも初めてという人もおられ、たくさん持ち帰る人も……、素晴らしい土産になったようです。

次に、収穫前ののどかな田園風景を羨目に国指定の「名勝九年庵」へとバスを進めます。ここでは、県の担当者の説明と案内でシーズン中にはない、静寂したなかでの庭園散策となりました。紅葉には早かったのですが、十分満蒙できたのではと思いました。九年庵にほど近いところに幕末に蘭方医として活躍した「伊東玄朴の生家」があり、ここでは神埼市の担当者に案内していただきました。

お楽しみの昼食は、神埼の新しい麺を使った「神埼めん懐石」です。神埼そうめんの知名度アップと普及のために地元の料理組合の方たちが考案した懐石料理です。詳細については是非、神埼へ食べに来てください。城原川のせせらぎを真近にみながらの「神埼めん懐石」は、皆さんに好評でした。

昼食のあとはよいよ「吉野ヶ里歴史公園」です。今更、説明することもないと思いますが、皆さん訪れるのを楽しみにされていたようです。ノボリ旗を持った鳥栖支部のメンバー数名の温かい出迎えがありました。広大な公園で、案内するにもほとんど拡散しての見学となってしまい、反省点となりました。見学途中、別ツアーの東京建築士会青年部のメンバーと遭遇。前日のセッションBのパネリスト村上美奈子さんと同行していた私は、気さくに村上さんに声をかけるメンバーをみて、氏の親しみやすさを感じました。視たりない思いで、集合時間をちょっとオーバー、15:00にはバスに全員集合となり、ホッとしました。

最後の見学地、鳥栖市の中富記念くすり博物館へと急ぎます。博物館では館長さん自ら施設概要の説明をしていただきました。私たちが建築士ということもあり、建物の維持管理のむずかしさのことなど、胸の内を語っていただいたことが非常に印象的でした。

一日の見学会が終わり、ほぼ予定通り17:20に佐賀バスセンターに到着しました。当見学会Cコースに参加された大阪府建築士会の春岡さん、吉岡さん、七堂さんと来年の大阪での再会を約束してお別れしました。

(神埼支部 福島安徳)



## Dコース(唐津)

六代にわたる譜代大名の歴史と  
明治・大正建築の巨匠の遺産探訪

参加者：63名

参加者64名が大型バス2台に分かれ、佐賀より出発、1時間30分かけて唐津の地へ入りました。唐津にて地元建築士会員、唐津市役所建築課(士会員)、市役所文化課、市役所観光課の方々のガイドのご協力をたまり1日がスタートしました。

2号車はまず歴史民族資料館へ、本館は県下には数少ない明治の木造洋風建築で唐津の石炭の積出港として栄えた頃の歴史的事務所建築で佐賀県重要文化財に指定されています。次に旧高取邸へ向かいました。高取邸は近年まで使われていましたが高取氏の唐津市に寄付されてから唐津市が管理しています。和と洋の折衷建築物で、杉の戸に書かれた杉戸絵が有名です。

その後、旧唐津銀行へ、本館は東京駅で有名な唐津出身の辰野金吾氏の監修によるもので、レンガ造りの建物です。現在は唐津市の管理の下、耐震改修工事が進められ、地域の顔となるよう一流シェフを招きレストランを開業し、活性化に役かかっています。昼食は旅館鶴屋にてイカの活き造りを食しました。イカは唐津市呼子の名産で観光客も多く訪れます。この場を借りて建築士会唐津支部長が唐津へようこそとあいさつされました。

昼からは六代にわたる譜代大名が治めた唐津の象徴の唐津城へ行きました。唐津城は近年石の階段とは別にエレベーターが設置されました。二手に分かれ城へそれから天守閣へのぼり城下町唐津を見学しました。唐津城を頭にみたとて、東に日本3大松原のひとつ虹ノ松原東の浜、西の浜と大きく羽を広げた鶴に見えることから舞鶴城とも呼ばれています。

次に唐津の祭り、唐津くんちの曳山を展示してある曳山展示場へ、現在毎年14台の曳山のうち1台を漆の塗り替えなど、修復のための設計作業を佐賀県建築士会へ委託され唐津建築士会員が行っております。続いて末達館へ向かいました。当地は稲作発祥の地として紹介されております。

最後に唐津焼の中里太郎右衛門窯の展示場へ、人間国宝の中里氏の窯が見学できなかったのは残念ですが、茶道の器として有名な唐津焼を見ることができました。また、地元唐津焼の窯元のご協力により、唐津焼をお持ち帰りいただくことができました。唐津駅にて解散し唐津の1日は終わりました。1号車も、展示場の都合で、順序を変えて見学を行い、無事1日を終えました。

担当者としては、たくさんの方の参加を受け楽しい1日を過ごすことができました。至らぬ点が多々あったことをお詫び申し上げます。今後唐津へ、もう一度訪れる方を楽しみにしております。

(唐津支部 太田年一)

## Eコース(唐津)

太閤秀吉の悠久の思いと譜代大名の歴史と  
明治・大正建築の巨匠の遺産探訪

参加者：18名

10月23、24日と1泊2日のコースで参加者は18名。北海道から近畿まで7組の方が参加されました。

1日目、晴天、午前中、唐津の町が一望できる鏡山見学、麓の鏡山窯で唐津焼の給付け体験、唐津くんちの曳山展示場を見学、昼食が終わり歴史的な建物である旧唐津銀行、旧高取邸、歴史民族資料館、末達館を見学し、古い建物の良さを実感しました。

2日目、朝から大雨、呼子の朝市は靴、ズボンが濡れながらも強行突破。次の名古屋城跡に着くころは小雨になりましたが、博物館だけ見学し、予定を変更して玄海原子力発電所のエネルギーパークを見学しました。昼からは雨も上がり唐津城、唐津焼きの中里太郎右衛門窯を見学。帰路へ。

2日間の短い見学会でしたが、参加者の皆様、旅行会社の方のご協力のもと、無事終えることができました。

(唐津支部 高橋晋佑)



Dコース：唐津城跡にて



Dコース：旧高取邸



Eコース：唐津焼給付け体験の様子



Eコース：唐津出身の建築家・辰野金吾が監修したといわれる旧唐津銀行にて



Fコース：有田の伝建地区を散策



Fコース：豊り窯の廃材で築いたトンバイ窯

## Fコース(有田・伊万里)

## 陶磁器のふるさと、陶工の歴史と技と美の探訪

参加者：57名

伊万里と有田というどちらも焼き物で有名な場所を巡るコースで、歴史あり、文化あり、美味あり、自然あり、の充実したコースとなりました。

最初に訪れたのは有田町の内山地区で、泉山磁石場から今泉今右衛門窯までの約2kmを2班に分かれて散策しました。泉山磁石場は17世紀初め、朝鮮人陶工・李参平が磁器の原料を発見したところで、このことにより日本初の磁器が誕生したとされています。まずこの磁器の始まりを訪ねることから始まりました。地元のガイドさんによる解説を受けながらの散策では、トンバイ窯のある裏通りや、江戸から昭和の各時代を代表する町屋が連なる重要伝統的建築物群保存地区をめぐるしました。古い建物や陶器屋さんが数多く並ぶところで歴史が感じられます。

次に訪れたのが九州陶磁文化館です。ここは陶磁器についての貴重な資料が豊富にあることはもちろん、この建物自体は日本建築学会賞を受賞した建物で大変興味深いところです。館長さんや有田の副町長さんの出迎えを受け、館内を見せてもらいました。ちょうどこの日は普段の常設展示に加えて特別展が行われており、全国に所蔵される名品を拝見することができました。

昼食は岳の棚田での焼き肉です。ここは日本の棚田百選にも選ばれた場所で、曲線美を織りなす棚田はもちろん、遠くには伊万里湾を望むことができ、その絶景を見ながらの焼き肉でした。肉は高級肉で知られる伊万里牛、またこの棚田でとれた米でつくったおにぎりやみそ汁も地元のみなさまから振舞われ、まさに手づくりの昼食会であり、参加したみなさまからも大変好評でした。

午後からは伊万里市の大川内山を訪れ、絵付け体験や町並みを散策しました。この大川内山は江戸時代に佐賀鍋島藩の御用窯がおかれ、朝廷や将軍などへの献上品とされる焼物が焼かれたところであり、現在でもたくさんの窯元がその歴史と技法を受け継いでいます。地元ガイドさんによる案内のあとは、買い物や散策など思い思いの時間を過ごしました。

今回は全国からたくさんの方々にご参加いただき、また最高の天気の中で最後まで無事にご案内することができ、スタッフ一同喜びと感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

(伊万里支部 田中鉄男)



Gコース(武雄・鹿島・塩田)

大正ロマン武雄温泉と歴史と文化が香る  
伝建地区の探訪

参加者：14名

武雄温泉楼門からは鹿島支部が案内役です。

最初は「志田焼の里博物館」の見学です。ここは、大正時代に創業された製磁工場で昭和59年に閉鎖され、以来風雨の中にさらされ少しずつ朽ちていきました。平成12年から、当時の生産ラインが一貫して残っている工場をそのまま保存修理して見学や体験のできる施設として市が運営しております。陶芸家でもある青木館長の説明に皆さん聞き入っておられました。

記念撮影も終え、次は伝統的建造物群保存地区である「塩田津」の探訪です。前もって地域保存会のガイドさんを予約していたのですが、別にも団体さんが多くみえているとあって急きょ、この保存修理を担当した支部会員の私たちがガイド役を勤めました。ここ塩田は長崎街道の宿場町として、また川港として陶磁器などの物資や商人で繁盛した町でした。当初は草葺きの町屋が建ち並んでいたようですが、大火や水害にたびたび襲われ「唐蔵家(いぐらや)」と呼ばれる外壁がしっくいので固められた重厚な造りに変わっていったようです。保存地区に認定されてまだ5年目で町並みの迫力もイマイチ感があつたと思えますが熱心に見たり聞いたりしていただきました。

今、保存工事では痕跡と呼ばれる建物の修復歴を正しく解析するのに一苦労していますが、早く「塩田津」に多くの方が足を運んでくれる、そんな町になればと思います。案内は次の伝建地区浜宿へと向かいました。ずいぶん歩く時間が多いGコースでしたが、最後まで皆さんの軽い足取りが楽しさを伝えて下さっているようでした。

(鹿島支部 山口清治)

Hコース(武雄・嬉野・塩田・鹿島)

大正ロマン武雄・嬉野温泉と歴史と文化が香る  
伝建地区の探訪

参加者：37名

小春日和に恵まれ佐賀バスセンターを出発して、車内からパルンフェスタの会場を眺めながら一路武雄温泉へ向かいました。到着地の温泉界隈は「武雄くんち」で露店が並び湯治客も多いようでした。大正4年竣工の武雄温泉新館と楼門を見学、新館では、辰野金吾博士の直筆設計図6枚の展示も行い、皆さん大変感動され写真に収められておりました。

次は樹齢3000年の大楠と「黒髪山の大蛇退治」のからくり人形を見学、午前中最後の世界一の巨大登窯「飛龍窯」や工房を見ていただき、巨木の大楠と巨大登窯や窯内部の展示室には驚かれました。

午後は昭和17年から卸船山山麓に巨額の私財を投じて日中友好の交流拠点とした「如蘭塾」に参りました。その後、武雄くんちの流籠馬見学と幕末の日本で、佐賀藩がいち早く西洋の学問「蘭学」の導入を進めた武雄の蘭書や大砲など探訪をしていただき、隣町の焼物工場、志田焼の里博物館へ走りまわりました。

宿泊地では、武雄、鹿島支部合同で懇親会を開催、今日一日の見学の感想をお話しながら千葉県建築士会副会長の越川さんの巨額で乾杯し、地元産の食材と地酒で酌み交わし交流を深めました。見学箇所が多かったので大変お疲れだと思いましたが、あわただしい一日の旅も「日本三大美人湯」で癒していただいたと思います。

(武雄支部 東島清司)



Hコース：武雄温泉楼門・新館



Hコース：辰野金吾博士の直筆設計図展示



Gコース：「産業考古学会推薦産業遺産・佐賀県遺産」志田焼の里博物館



Gコース：永年の焼成ですっかり窯直し、厚厚な瓦合いを隠し出す窯内部

Iコース(小城・多久)

星巖寺の楼門と五百羅漢、九州の小京都小城と多久探訪

参加者：13名

北海道から女性1名、岐阜県から女性2名、千葉県から男性9名、愛知県から男性1名の合計13名の方のご参加をいただきました。

佐賀駅バスセンターを8時30分に出発し、道中挨拶、日程説明などをしながら小城市の楼城館・小城公園へ到着。小城・多久のスタッフ25名で出迎えて合流しました。当館では古庄館長さんより詳しく説明をいただきました。

次は星巖。楼門と五百羅漢と鶴島藩墓所を見学。ここでも古庄館長さんより説明。

続いて天山酒造へ。天山酒造の七田会長さんのご案内で、酒蔵の詳細と酒造りの工程を詳しく勉強しました。もちろん酒の試飲もさせてもらいました。

村岡総本舗では「抹茶と小成羊羹」の接待を受けて、正午ちょうどに昼食処、滝見屋へ。鯉の洗い(刺身)と狸こく(味噌汁)で満腹、満足。後は「清水の滝」で一休み。

午後は多久市のくど造り民家(森家・川内家)から多久聖廟へ。ここでは建物をじっくりと鑑賞しました。また思いもよらず、多久市の伝統芸能「獅子舞」の歓迎を受けました。特にかわいい子どもたちの獅子さんには皆さん目を細めておられました。全行程を終え、16時過ぎに佐賀駅バスセンターへ無事到着、解散。お疲れ様でした。

参加して頂きました13名の皆さま、見学地ではもちろん、車中でも和気あいあいと接して頂きありがとうございました。スタッフ一同、素晴らしい交流会ができましたことに感謝いたします。再会を楽しみにしております。お元気で、(多久支部 飯守恵洋)



Iコース：国指定重要文化財「多久聖廟」にて



Iコース：多久聖廟で獅子舞にて歓迎

全国の仲間が佐賀に集まり、一日で得てしまうのは、もったいないということで、佐賀の歴史的まちなみや建物、自然、食文化を楽しんでいただく9コースを用意しました。「交流見学会」というネーミングからわかるように、地元の建築士との交流を念頭に企画しました。

一日コースは天気にも恵まれ、各地域での催しを堪能していただきました。また、一泊二日コースでは夜に地元建築士との意見交換会が行われ、大変有意義な時間を共有できたことに満足しています。本大会が始まり、以降3日間は全国の建築士の方々が佐賀県内をくまなく見学していただきありがとうございました。

(エキスカーション部会 峰松哲也)



本大会はじめ見送りをする佐賀県建築士会のメンバー